

第17回日本・スペイン・シンポジウム開会式

平成26年11月5日 9:00-9:30

於：サンタンデル・マグダレーナ宮殿

皆様おはようございます。

本日、サエンス・デ・サンタマリア副首相をお迎えし、第17回日本・スペイン・シンポジウムが開催されますことを、日本政府を代表して心からお喜び申し上げます。

昨年から今年にかけ、日本とスペインは交流400周年を祝いました。昨年6月に皇太子殿下がスペインを御訪問されたのに続き、10月にはラホイ首相が訪日され、そして本年5月には安倍総理がスペインを訪問するといったようにハイレベルでの交流が実現しました。こうして盛り上がった両国交流の気運を受けて、1997年以来続いており、前回東京では開会式にラホイ首相や岸田外務大臣の出席も得た伝統あるこのシンポジウムが、ここサンタンデルで開催され、スマートシティといった具体的なテーマを含め、将来に向けた両国の関係強化の方策について話し合われることは極めて有意義なことであると思えます。

スペインは豊かで多様な文化、美しい自然、美食やファッションに代表される生活術を国民が身につけており、日本人にとりあこがれの国です。実際に、昨年は37万人の日本人がスペインを訪れています。また、欧州有数の経済大国であり、高い技術を誇る多数のグローバル企業がラテンアメリカを中心に世界に独自のネットワークをもっており、日本にとって、国際社会における良きパートナーです。ラホイ首相のリーダー・シップのもとで、経済危機を克服しつつあり、スペインの重要性はますます高まると確信しています。

日本とスペインは400年の交流の歴史に加えて、人権、民主主義、法の支配、市場経済といった基本的価値を共有するパートナーです。両国首脳相互訪問を受け、政治・安全保障、観光・文化分野の交流、中南米地域における協力、経済関係といった分野を柱に、具体的な協力を積み重ねていきたいと思えます。

本日のテーマの一つであるスマートシティは両国の技術や知識を結集させる格好の場であり、非常に付加価値の高い取組です。本日、このテーマについて有意義な討論が行われることを期待しています。

また、もう一つのテーマは「日本スペイン交流400周年から学んだこと：市民社会から両国の将来を確固たるものとする事」です。「交流年」中には、スペインでは570以上、日本では200以上の記念事業が行われました。この気運の高まりをいかに持続し、2018年の日スペイン外交関係設立150周年につなげ、またフェリペ6世国王陛下の訪日につなげていく観点からも、両国の幅広い分野での協力をどのように推進するかについて議論されることを期待いたします。

最後になりますが、ソラヤ・サエンス・デ・サンタマリア副首相、イグナシオ・ディエゴ・カンタブリア州知事、座長として本シンポジウムの開催にご尽力いただいたピケ座長及び横山座長、サンタンドール湾を臨むこのマグダレーナ宮殿を、今回のシンポジウムの場として提供していただいたイニゴ・デ・ラ・セルナ市長に心からの敬意と感謝を表したいと思います。また、石原前環境大臣、シンポジウム出席の各位を始めとする関係者の皆様のご協力に感謝申し上げます。

このシンポジウムから、今後の両国の協力を新しい方向性を示していただけるような議論、提言を楽しみにさせて頂きつつ、私の挨拶といたします。ご清聴ありがとうございました。

